

平成25年度魅力ある学校づくり調査研究事業実績報告書

都道府県教育委員会名〔岐阜県教育委員会〕

1 事業実施期間 平成25年4月23日～平成26年3月25日

2 拠点校及び連携校

区分	学校名	学級数	児童生徒数
拠点校(中学校)	瑞穂市立穂積北中学校	15(2)	461
連携校 (拠点校中学校区 内の小学校)	瑞穂市立本田小学校	19(3)	478
	瑞穂市立生津小学校	13(1)	366

※学級数の()には、特別支援学級数を内数として記入

※学級数及び児童生徒数は平成25年5月1日現在で記入

3 意識調査(アンケート共通項目)

(%)

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	ア 学校が楽しい				イ みんなで何かをやるのは楽しい				ウ 授業に主体的に取り組んでいる				エ 授業がよくわかる			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	前年①	455	44.7	41.8	9.4	4.0	54.1	37.6	6.0	2.2	22.8	51.2	23.7	2.5	27.3	52.3	17.2	3.4
		前年②	455	38.8	46.1	10.0	5.1	54.6	34.5	8.2	2.7	26.1	51.9	18.5	3.6	21.4	55.5	16.7	6.5
		本年①	446	48.7	38.1	8.7	4.5	54.5	36.1	6.5	2.9	37.9	52.7	8.3	1.1	29.1	52.5	15.2	3.1
		本年②	437	57.4	34.3	5.9	2.3	61.6	33.0	4.5	0.9	42.8	49.9	6.9	0.5	31.1	52.4	13.7	2.7
	3	中2①	153	34.9	46.7	15.1	3.3	50.0	40.8	7.2	2.0	16.3	56.9	24.2	2.6	22.9	50.3	22.2	4.6
		中2②	154	30.5	52.6	9.7	7.1	49.4	38.3	9.7	2.6	22.7	52.6	21.4	3.2	14.9	59.7	17.5	7.8
		中3①	150	44.0	41.3	9.3	5.3	49.3	42.0	5.3	3.3	42.7	48.0	8.0	1.3	17.3	59.3	18.7	4.7
		中3②	147	51.7	38.8	6.8	2.7	55.8	38.1	4.2	2.0	53.7	42.2	4.1	0	26.5	55.8	15.0	2.7
	2	中1①	153	57.5	36.6	2.6	3.3	69.9	26.8	2.0	1.3	30.7	45.1	23.5	0.7	37.9	47.1	13.1	2.0
		中1②	150	36.0	47.3	12.7	4.0	60.7	29.3	9.3	0.7	26.7	54.0	16.7	2.7	24.0	52.0	19.3	4.7
		中2①	149	36.2	45.6	12.8	5.4	50.3	36.2	10.7	2.7	31.5	53.7	13.4	1.3	23.5	52.3	19.5	4.7
		中2②	145	56.6	33.1	6.9	3.4	60.0	34.5	5.5	0	31.0	60.7	7.6	0.7	28.3	53.8	13.8	4.1
	1	小6①	149	53.7	37.6	4.7	4.0	67.8	29.5	2.0	0.7	30.9	51.7	15.4	2.0	47.0	45.6	6.7	0.7
		小6②	150	55.3	33.3	8.7	2.7	65.3	29.3	4.0	1.3	22.0	58.7	16.7	2.7	41.3	48.7	9.3	0.7
		中1①	147	66.0	27.2	4.1	2.7	63.9	29.9	3.4	2.7	39.5	56.5	3.4	0.7	46.9	45.6	7.5	0
		中1②	145	64.1	31.0	4.1	0.7	69.0	26.2	4.1	0.7	43.4	46.9	9.0	0.7	38.6	47.6	12.4	1.4
小学校	高学年計	前年①	297	56.9	33.7	5.4	4.0	72.1	25.9	1.7	0.3	35.7	48.1	14.8	1.3	50.8	40.7	7.4	1.0
		前年②	298	52.0	35.2	10.7	2.0	63.1	30.5	5.4	1.0	30.2	53.0	14.4	2.3	46.6	43.6	8.1	1.7
		本年①	275	56.4	31.3	8.0	4.4	69.5	26.2	2.5	1.8	42.5	49.5	6.2	1.8	56.7	37.8	5.1	0.4
		本年②	281	53.7	29.2	10.7	6.4	57.3	32.4	8.2	2.1	51.2	40.6	6.8	1.4	47.7	40.9	10.0	1.4
	6	小5①	148	60.1	29.7	6.1	4.1	76.4	22.3	1.4	0	40.5	44.6	14.2	0.6	54.7	35.8	8.1	1.4
		小5②	148	48.6	37.2	12.8	1.4	60.8	31.8	6.8	0.7	38.5	47.3	12.2	2.0	52.0	38.5	6.8	2.7
		小6①	145	53.8	36.6	6.9	2.8	67.6	29.0	2.1	1.4	37.2	53.1	8.3	1.4	60.0	35.2	4.1	0.7
		小6②	147	51.0	34.0	8.2	6.8	53.7	36.7	6.8	2.7	45.6	46.9	6.1	1.4	44.2	46.3	6.8	2.7
	5	小5①	130	59.2	25.4	9.2	6.2	71.5	23.1	3.1	2.3	48.5	45.4	3.8	2.3	53.1	40.8	6.2	0
		小5②	134	56.7	23.9	13.4	6.0	61.2	27.6	9.7	1.5	57.5	33.6	7.5	1.5	51.5	35.1	13.4	0

学校種	学年等	実施時期	児童生徒数(人)	オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした				カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした				キ 叩いたり、けったり、強く押したりした				ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした			
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
中学校	全学年計	本年①	446	53.4	17.7	17.5	11.4	51.1	21.5	15.7	11.7	52.7	20.0	17.7	9.6	54.3	24.2	13.9	7.6
		本年②	437	69.1	16.9	8.0	5.9	70.3	15.8	7.8	6.2	67.0	14.6	11.4	6.9	67.7	17.4	9.8	5.0
	3	中3①	150	46.0	22.7	16.7	14.6	46.0	24.7	18.7	10.6	47.3	24.7	16.7	11.3	48.0	31.3	12.0	8.7
		中3②	147	63.3	23.8	7.5	5.4	68.0	21.1	7.5	3.4	60.5	20.4	12.2	6.8	63.9	23.8	8.2	4.1
	2	中2①	149	56.4	16.8	16.8	10.0	49.0	19.5	18.8	12.7	51.0	22.1	16.8	10.1	52.3	24.8	14.1	8.7
		中2②	145	69.0	17.2	8.3	5.5	69.7	14.5	9.0	6.9	67.6	13.8	11.7	6.9	67.6	14.5	11.7	6.2
	1	中1①	147	57.8	13.6	19.0	9.5	58.5	20.4	9.5	11.6	59.9	12.9	19.7	7.5	62.6	16.3	15.6	5.4
		中1②	145	75.2	9.7	8.3	6.9	73.1	11.7	6.9	8.3	73.1	9.7	10.3	6.9	71.7	13.8	9.7	4.8
小学校	高学年計	本年①	275	39.6	16.7	19.6	24.0	34.2	17.5	21.1	27.2	48.0	16.4	19.6	16.0	42.5	21.5	21.1	14.9
		本年②	281	58.4	12.1	10.3	19.2	54.8	9.3	10.0	26.0	61.6	11.0	11.4	16.0	59.4	15.3	13.2	12.1
	6	小6①	145	33.8	22.1	22.8	21.3	26.9	25.5	20.0	27.6	41.4	18.6	22.8	17.2	31.0	24.1	24.8	20.0
		小6②	147	66.0	10.9	9.5	13.6	59.2	8.8	7.5	24.5	62.6	9.5	9.5	18.4	58.5	14.3	12.9	14.3
	5	小5①	130	46.2	10.8	16.2	26.8	42.3	8.5	22.3	26.9	55.4	13.8	16.2	14.6	55.4	18.5	16.9	9.2
		小5②	134	50.0	13.4	11.2	25.4	50.0	9.7	12.7	27.6	60.4	12.7	13.4	13.4	60.4	16.4	13.4	9.7

4 課題・目標・取組

課題	主体的に授業に取り組む姿は増えたが学力差があり、授業や特別活動等で受け身がちなため学校が楽しくないと感じている児童生徒が多い。
目標	授業や特別活動等で主体的に活動できる場を意図的に設定し、児童生徒が自ら考え活動し、よさを認め合える姿を目指す。
取組	授業や特別活動等で自ら活動する場を位置付け、その活動の中で学習の基礎基本の定着と主体的な姿を認め、満足感・成就感を味わわせる。

5 重点推進事項

小・中共通	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童生徒が授業の中で主体的に学習に取り組み「分かった、できた喜び」を味わうことができるよう、主体的に取り組む活動の場を意図的に設定する。 ② 仲間と積極的に関わることを通して豊かな人間関係を築くとともに、仲間と共に活動することの楽しさや成就感を味わうことができるよう、特別活動(学校行事、学級活動、児童会・生徒会活動)において、自主的・主体的に取り組む場を連続して設定する。 ③ 校区内の全職員が共通の研究内容で取り組み、小学校から中学校への円滑な接続を目指す。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ① 各教科の特性をもとにねらいを明確にし、生徒が主体的に取り組み、基礎的・基本的な学力を身に付ける手だてを工夫する。 ② 仲間と積極的に関わることを通して豊かな人間関係を築くとともに、仲間と共に活動することの楽しさや成就感を味わうことができるよう、特別活動(学校行事、学級活動、生徒会活動)において、一人一人の生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定する。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ① 一人一人が活躍できる場と集団での学び合いの場を位置付け、個に応じた手立てを明確にした指導過程を究明する。(全校) ② 「共通基礎テスト」「朝学習プリントを共通で使用」「合唱曲の共通指導」など中学校への入学を見据え、2校が共通して指導する。(全校)

6 意識調査結果の分析と考察

成 果	成果があがったと考えられる主な理由
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」、「授業に主体的に取り組んでいる」の2つの項目において、「当てはまる」の回答が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や特別活動において、児童生徒が主体的に活動する場を意図的に設定したことにより、さまざまな活動に充実感や満足感を感じることができ、「学校が楽しい」や「授業に主体的に取り組んでいる」という実感がもてたのではないかと考えられる。 ・「学校が楽しい」の項目においては、特に中学校の「当てはまる」の回答が大きく増加した。これは、教師がチェックシートをもとに目標や取組を見つめ直し、さらなる具体的な改善を図るといった指導改善が生かされたからだと考える。 ・「授業に主体的に取り組んでいる」の項目においては、小中学校共に「当てはまる」の回答が調査を重ねるたびに増加した。これは、めざす姿を具体的に提示したことや主体的に学習に向かう場を意図的に設定したことにより、児童生徒自身が「主体的に取り組んでいる」ことを実感できたのではないかと考えられる。また、特に中学3年生の「当てはまる」の回答数の増加が著しい。これは、自己の将来の目標を見据え、その実現のための進路決定に向けて文字通り主体的に努力する生徒が増加したためであると考えられる。

課 題	課題として残ったと考えられる主な理由
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がよくわかる」の項目において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答に増加が見られない。 ・小学校において、「みんなで何かをするのは楽しい」の項目において、小学校で「当てはまる」の回答が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が授業に主体的に取り組む姿は増えたが、「授業がよくわかる」の項目では、小中学校共に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定的な回答の増加が見られず、また、大きな減少もなかった。これは、仲間の意見を手がかりにしたり、教師の支援を受けたりして課題解決を進めている姿が多くみられ、自らの力で課題を解決したと感じていない児童生徒がみられるためではないかと考えられる。児童生徒が自らの力で課題を解決したと感じられるよう、指導方法を工夫する必要がある。 ・小学校においては、「みんなで何かをするのは楽しい」の項目で「当てはまる」の回答が減少した。これは、行事や活動がある場合は充実感や自己有用感を実感することができるが、そういった活動がない場合は実感することが難しいのではないかと考える。行事への取組以外でも、児童が自らの日常生活を見つめ、よりよく改善していくために活動を工夫することができるよう、指導を工夫する必要がある。

7 2年間の調査研究の成果と課題

不登校の未然防止につながる「魅力ある学校づくり」に向けた取組の成果と課題を以下に示す。

〔小・中共通〕

- ① 児童生徒が授業の中で主体的に学習に取り組む「分かった、できた喜び」を味わうことができるよう、主体的に取り組む活動の場を意図的に設定する。
 - 児童生徒が主体的に学習したり、活動したりする姿が増えた。さらにこれまでに以上に学習内容の理解を深めたり、活動の充実感を感じたりする児童生徒が増え、自己有用感を高めることができた。この要因として、特に平成25年度に授業における共通取組内容の3つの視点（ねらいを明確にした指導、「児童生徒が

主体的に学習に向かう場」の設定、児童生徒が主体的な姿になるための「手立て」の工夫)をもとに授業改善を行ったからであると考える。

- ② 仲間と積極的に関わることを通して豊かな人間関係を築くとともに、仲間と共に活動することの楽しさや成就感を味わうことができるよう、特別活動(学校行事、学級活動、児童会・生徒会活動)において、自主的・主体的に取り組む場を連続して設定する。
 - 特別活動(学校行事、学級活動、児童会・生徒会活動)において、児童生徒が学級や学年の仲間だけでなく、異学年との活動を企画したり、自分の考えや思いを話したりする場を位置付けた。その結果、仲間と協力して活動をやりきる姿や自信をもって考えや思いを話す姿が増え、成就感を感じるようになりつつある。この要因として、仲間と相談する時間を位置付けて積極的に相談する姿を認めたり、不安を払拭するために事前に発言する内容をじっくりと考えさせたりする等の手立てを工夫したことが考えられる。
- ③ 校区内の全職員が共通の研究内容で取り組み、小学校から中学校への円滑な接続を目指す。
 - 兼務教諭が、小・中連携のパイプ役となり、情報を共有すると共に、事業の推進を図ることができた。
 - 兼務教諭が配置されない場合も十分な小・中連携が図れるように、情報共有の時間と場所を設定することや取組内容の精選を図ることなど、さらに工夫する必要がある。

〔中学校〕

- ① 各教科の特性をもとにねらいを明確にし、生徒が主体的に取り組む、基礎的・基本的な学力を身に付ける手だてを工夫する。
 - 意識調査結果の推移からも分かるように、各教科において主体的に学習に向かう姿が増えた。この要因として、生徒に「めざす主体的な姿」を具体的に提示するとともに、その姿を具現化するために主体的に取り組む場を位置付け、めざす姿を実現するための手立てを各教科部で検討し、実践を図ったためであると考えられる。
- ② 仲間と積極的に関わることを通して豊かな人間関係を築くとともに、仲間と共に活動することの楽しさや成就感を味わうことができるよう、特別活動(学校行事、学級活動、生徒会活動)において、一人一人の生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定する。
 - 様々な取組を通して、生徒自身が自己肯定感、自己有用感を感じるようになった。この要因として、学級や学年の仲間の中で自分の考えや思いを話す場面を積極的に位置付けたり、活動や話し合いの企画・運営を生徒のリーダーに任せたりするなど、生徒主体の活動を仕組んだことによるものであると考えられる。

〔小学校〕

- ① 一人一人が活躍できる場と集団での学び合いの場を位置付け、個に応じた手立てを明確にした指導過程を究明する。(全校)
 - 両校において、児童が主体的に話し合ったり、学習活動に取り組んだりする姿が育った。この要因として、本田小学校の道徳の授業、生津小学校の英語科の授業などそれぞれ各学校が長年積み重ねてきた研究に、3つの共通取組内容を取り入れ、さらに授業改善を図ったことが考えられる。

<平成25年度>

月	小学校で行う主な内容	実施 状況	中学校で行う主な内容	実施 状況
4月	魅力ある学校づくり推進委員会 校内研究会(生津小)	○ ○	魅力ある学校づくり推進委員会 校内研究会 第1回連絡協議会[東京](小・中) 第1回小・中連絡協議会(小・中)	○ ○ ○ ○
5月	魅力ある学校づくり推進委員会 校内研究会(生津小・本田小) 第1回意識調査 分析と考察	○ ○ ○	校内研究会 第1回意識調査 分析と考察 第1回事業推進協議会(小・中) 第2回小・中連絡協議会(小・中) 第1回市教育委員会訪問指導	○ ○ ◇ ○ ◇
6月	校内研究会(生津小・本田小) チェックシートによる今後の指 導の方向・重点内容の検討	○ ◇	校内研究会 第1回魅力ある学校づくり調査研 究委員会(講師依頼) チェックシートによる今後の指 導の方向・重点内容の検討 第2回市教育委員会訪問指導 校内研究会	○ ○ ◇ ○ ◇
7月	校内研究会(生津小・本田小)	○	校内研究会 第2回事業推進協議会(小・中) 第3回小・中連絡協議会(小・中)	△ ◇ ○
8月	校内研究会(生津小・本田小)	○	校内研究会 第4回小・中連絡協議会(小・中)	○ ○
9月	校内研究会(生津小・本田小)	○	校内研究会	○
10月	校内研究会(生津小) 穂積北中学校成果発表会参加 本田小学校公表会 第2回意識調査 分析と考察	○ ○ ○	第5回小・中連絡協議会(小・中) 第2回意識調査 分析と考察 校内研究会 第2回魅力ある学校づくり調査研 究委員会(小・中) 第3回市教育委員会訪問	◇ ◇ ○ ○ ○
11月	校内研究会(本田小) 生津小学校研究発表会	○ ○	校内研究会 ブロック協議会[大阪](小・中) 学習公表会 第4回市教育委員会訪問指導	○ ○ ○ ○
12月	校内研究会(生津小・本田小) 第3回意識調査 分析と考察	○ ○	校内研究会 第3回意識調査 分析と考察 第6回小・中連絡協議会(小・中)	○ ○ ◇
1月	校内研究会(生津小・本田小)	○	校内研究会 第7回小・中連絡協議会(小・中) リーフレット作成	○ ○ ◇
2月	校内研究会(生津小・本田小)	○	校内研究会 第3回魅力ある学校づくり調査研 究委員会(小・中) 第2回連絡協議会[東京](小・中) 第8回小・中連絡協議会(小・中)	○ ○ ○ ○
3月	校内研究会(生津小・本田小) まとめ、次年度の方向確認	○ ○	校内研究 まとめ、次年度の方向確認	○ ○

(2) 重点推進事項の実施状況

居場所と絆づくりを進める観点から、児童生徒が自己存在感や自己肯定感を感じるとともに、仲間との相互援助活動や仲間からの承認などにより、自己有用感も感じられるよう、取り組んだ内容を以下に示す。

〔小・中共通〕

- ① 児童生徒が授業の中で主体的に学習に取り組み「分かった、できた喜び」を味わうことができるよう、主体的に取り組む活動の場を意図的に設定する。

児童生徒一人一人が主体的に授業に臨む姿を生み出すために、1単位時間のねらいを明確にするとともに、授業の中に「児童生徒が主体的に学習に向かう場」を意図的に設定した。この場において、主体的に取り組む姿を価値付け、認めていくこと、さらに、課題解決のための手立てを工夫することにより、児童生徒は自信をもち、意欲的に自ら進んで課題解決に取り組む姿が生まれた。その結果、「授業が分かるようになる、できるようになる」ことを実感する児童生徒が増えた。

- ② 仲間と積極的に関わることを通して豊かな人間関係を築くとともに、仲間と共に活動することの楽しさや成就感を味わうことができるよう、特別活動(学校行事、学級活動、児童会・生徒会活動)において、自主的・主体的に取り組む場を連続して設定する。

学校行事や学級活動、児童会・生徒会活動において、異学年での遊びや集会活動等、自主的・主体的に取り組む異年齢との交流活動の場を意図的・計画的に位置付けた。自他のよさを認め合う場を位置付けたり、上級生がリーダーシップを発揮する姿を認めたりすることにより、仲間と積極的に関わること、協力することのよさを感じ、活動の成就感を感じる児童生徒が増えた。

〔中学校〕

- ① 各教科の特性をもとにねらいを明確にし、生徒が主体的に取り組み、基礎的・基本的な学力を身に付ける手だてを工夫する。

上記の内容を含め、分かった喜び・できた喜びを実感する授業を目指し、「単位時間のねらいを明確にした指導」「生徒が主体的に学習に向かう場の設定」「生徒が主体的な姿になるための手立ての工夫」の3つの内容に取り組んだ。年間に約20回の教科の公開授業を実施し、教師の指導の在り方を検証し、一層の工夫・改善を図った。その結果、これまで以上に「授業に主体的に取り組む姿」が生まれるとともに、理解を深める姿も増えつつある。

- ② 仲間と積極的に関わることを通して豊かな人間関係を築くとともに、仲間と共に活動することの楽しさや成就感を味わうことができるよう、特別活動(学校行事、学級活動、生徒会活動)において、一人一人の生徒が主体的に活動できる場を意図的に設定する。

教科指導と同様に、特別活動(学級活動)においても3つの共通取組内容にて、各学年にて公開授業を実施し、指導の在り方を検討した。また、集会活動、交流活動等においては、各自に意見をじっくり考えさせることや生徒同士で十分相談させることなど、事前に手立てを十分検討した。その結果、生徒が生き生きと自分の意見を交流し合う姿が生まれた。さらに、実施後の生徒の状況をもとに、指導の在り方の工夫・改善を図った。

〔小学校〕

- ① 一人一人が活躍できる場と集団での学び合いの場を位置付け、個に応じた手立てを明確にした指導過程を究明する。(全校)

〈本田小学校〉

道徳の授業において、範読後の児童の感想から、授業で話し合いたい内容を決めていくことにより、児童が自らの課題として、道徳的価値の追究、道徳的価値の自覚に向かえるよう指導過程を工夫した。その結果、児童は主体的に話し合いの場で自分の意見を発表する姿が生まれた。

〈生津小学校〉

英語科の授業において、児童が主体的に取り組み、学習内容を身に付けるため、「児童が明確に課題をつかむための手立て」「つかんだ課題に向かって主体的に活動するための手立て」「単位時間の終末における児童の相互評価の在り方の工夫」の3つの内容について、公開授業をもとに教師の指導の在り方を検証した。その結果、児童は1時間の授業の充実感を味わい、次の授業への意欲をもつことができるようになった。

9 事業担当者の活動

(1) 活動内容

実施要項の該当箇所		活動内容
4 (1)	事業全般	・校内研究会等の計画・調整 ・研究の方向付けと学校体制づくり
4 (2)	小・中連携	・行事、授業研究会等のコーディネート ・入学説明会等の計画・調整
	小・小連携	・2校間の共通の指導内容づくりと実施の見届け ・2校間での交流の企画、運営
4 (3)	データ収集、分析等	・意識調査の実施と集計 ・資料分析とその考察、研究会への取組等提案
4 (4)	取組の評価	・各校における意識調査結果 ・研究会での全体評価
4 (5)	資料作成、広報等	・HPや学校通信等での配信 ・研究紀要およびリーフレットの作成

(2) 事業推進上の成果と課題

〈成果〉

- ・定期的な小中連絡会の開催によって、拠点校、連携校それぞれにおける取組の進捗状況を把握するとともに、共通理解の上で事業を進めることができた。
- ・小・中連携のための行事や活動において、兼務教員の立場を生かして、互いの児童生徒の実態や学校の実情を踏まえた企画・運営を行うことができた。

〈課題〉

- ・小・小連携においては、各校において共通の内容に取り組むことはできたが、両校の教育課程、学校行事等から、同時に同一の内容に取り組む、互いに交流を深め、仲間意識を育てるような具体的な取組を行うことは困難である。次年度以降、この点を工夫していく。

10 教育委員会の取組

(1) 市町村教育委員会

〔重点推進事項〕

- ・小・中連携や小・小連携を一層深めるため、小・中連携協議会や事業推進委員会において、連携の在り方や具体的な事業推進方法についての指導・助言を行うこと。

- ・穂積北中学校区を取組を市内各校の様々な担当者会や研修会等の場で紹介し、他校区における不登校の未然防止の取組等が推進されるよう普及・啓発を図ること。

〔課題と成果〕

- 研究主題である「主体性の育成」を図るための授業づくりや小・中、小・小の連携の視点から授業参観、指導案作成の指導・助言を行ったことで、教師の授業力の向上とともに、児童生徒に「自ら考え、学ぶ子どもの姿」が確実に育ちつつある。
- 市内の全小中学校の職員が研究成果発表会に参加したことや研修会などで、本事業について紹介したことにより、不登校未然防止の取組の重要性をはじめ、本事業の成果について、普及・啓発を図ることができた。
- 意識調査アンケートで明らかになった「主体的に取り組んでいる」の児童生徒の実感を「授業がよく分かる」という意識に高めるために効果的な指導について指導・助言し、さらなる教師の指導力の向上を図る。
- 共通取組内容の多様化、交流の場の設定等、効果的な小・小連携のあり方を工夫する。

(2) 都道府県教育委員会

〔重点推進事項〕

- 学校訪問や市教育委員会への指導の場を通して、児童生徒の自己存在感を高めるための指導・助言を行う。
- 県内6地区で行われる年間18回での生徒指導連携強化委員会やWEBページなど様々な機会を通して、本事業の不登校未然防止の取組や考え方を紹介し、各地区での実践を啓発する。

〔成果と課題〕

- 学校訪問や小・中連絡協議会などの場で学校や市町村教育委員会へのきめ細かい指導を行い、3つの研究内容の絞り込みや小・中連携の研究内容を明確にする中で、児童生徒の自己存在感を高められてきている。
- 生徒指導連携強化委員会やWEBページでの啓発活動のみならず、様々な研修会の場で、未然防止の取組や考え方を啓発することができた。
- 児童生徒の活動後の意識をもとにしながら、成果のあった取組を検証し、小・中連携や小・小連携の活動を高めていくとともに、その成果を県内に周知する。

11 「魅力ある学校づくり調査研究委員会」

(1) 構成

所 属	人数	備 考 (主な職名等)
穂積北中学校	4	校長、教頭、主幹教諭、教育相談主任 (事業担当教諭)
本田小学校	2	校長、教務主任 (事業担当教諭)
生津小学校	2	校長、生徒指導主事 (事業担当教諭)
保護者、地域	7	学識経験者、PTA役員、自治会長
市教育委員会学校教育課	2	課長、総括課長補佐

(2) 事業推進上の成果と課題

<成果>

- ・穂積北中学校区では、以前より地域ぐるみで学校を支援する活動を組織的に行ってきたおり、この委員会を本事業の調査研究委員会とした。この委員会は、学識経験者及び保護者、学校関係者も含まれることから、この会において事業の進捗状況の報告を行ったり、研究の助言を受けたりすることができた。

<課題>

- ・事業の内容や方向性を協議することについては、学校、市教委等の参加する小・中連絡協議会とし、本会は進捗状況や成果を報告し、意見をいただく機会とした。今後、他校区にて効果的な小・小連携、小・中連携のあり方を工夫するための必要な組織のモデルとするためには、十分に機能するよう会の趣旨を工夫する必要がある。

12 作成資料等

<平成24年度>

○リーフレット「誰もが安心して生活できる不安のない学校生活づくり」

<平成25年度>

○研究紀要

○リーフレット「主体性を育てるための小中の連携」

13 関連URL

・ <http://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/seitosidou/seitosidou1.html>

【問い合わせ先】

所属	岐阜県教育委員会 学校支援課		電話	058-272-1111（内線：3695）	
職名	指導主事	氏名	岩佐 泰典	よみがな	いわさ やすのり